ふしぎなフーセンガム

「ふしぎなフーセンガム」を読んで

3年　R・Yさん

主人公の大西じゅんは男の子だけど、外でサッカーをするより家の中でゆびあみをすることが好き、一方、山田みこは女の子だけど、家の中で遊ぶより外で遊ぶ方が好きで、じゅんくんとは正反対。

私も女の子だけど、家の中でお人形やおままごとをして遊ぶより、外でかけっこをしたりおにごっこをしたりドッジボールをする方が好き。「なぜ好きなの」と聞かれても理由はなくて、好きだから好き。好きなことに理由はない。私も誰かに「女の子だからこうしなさい」と決めつけられるのはいい気持ちがしない。だから、じゅんくんがママに男の子だからサッカーで遊んだらと言われていやな気持ちになるのもよく分かる。

この本に出てくるフーセンガムは、なりたいものをおねがいしながらふくらまして、ガムをかんでいる間は変身できるというまほうのガム。じゅんくんがおねがいしたのは女の子のかっこうをしたいということだった。なぜなら女の子のかっこうなら自分の好きなことを思いっきりできるから。私は、見た目によって自分が本当にしたいことをどうどうとできたりできなくなるのは悲しいなと思った。見た目とはかんけいなく自分がやりたいことはやりたい。大切なのは見た目ではなくなかみだと思った。山田みこはガムをかんでいないのに「女だから女らしくしろ」とか「男だから男らしくしろ」と言われることをへんだと思っていて「だからあたしはあたしでいいと思う」と言っていた。見た目ではなく自分のなかみを大切にしていてかっこいいと思った。私はフーセンガムは自分がやりたいことをはずかしがらずに勇気を出してできる、自分の気持ちに正直になれるガムだと思った。私も山田みこみたいにフーセンガムをかまなくても自分のやりたいことをやって自分の気持ちに正直でいたいと思った。